

登録コード:MH433300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	地域作業療法学【20M以降】 Community based Occupational Therapy			
担当教員	上村 智子 佐藤 正彬			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/3年 後期 金曜・2時限			
単位数、講義室	1単位	保健学科OT実習室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		地域リハビリテーションの概念を理解し、その制度、地域支援事業、発達障害の支援、地域で実施する作業療法プログラムの実際を理解する。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		地域リハビリテーションの概念を理解し、その制度、地域支援事業、発達障害の支援、地域で実施する作業療法プログラムの実際を理解する	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		急速な少子高齢化が進む中、多様な健康問題に対して、作業療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探求心と、対象者の課題に応じた安全で効果的な実践に向けて、生涯をかけて取り組む力が身についている。	
	健康長寿			
	全学横断特別教育プログラム			
	授業概要			
	本授業では、急速な少子高齢化が進むなか、作業療法で対象とする領域が医療機関から地域へと広がっている現状を踏まえて、地域リハビリテーションの制度や実践を学びます。具体的には、高齢者を中心に展開している地域支援事業について、歴史や地域の特徴に応じた実施内容について調べたり、児童発達支援施設における実地見学を通して、学生が能動的に学びを深めます。 本授業の地域支援事業については、2年次の「高齢者リハビリテーション概論」を前提に、3年次の「社会生活自立支援論」の内容と補完的に学んでいくことになります。また、児童発達支援施設での実地見学については、1年次の「人間発達学」、2年次の「発達障害評価学実習」、「小児科学」、「発達障害作業治療学」および「作業療法評価学実習」、3年次の「発達障害作業治療学」および「作業療法治療学実習」の知識と技術を前提としています。そして本内容は、4年次の総合臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の市町村と連携した認知症予防・生活支援の実践や医療機関および児童福祉施設における作業療法士の実務経験を生かして講義を行います。 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。			
授業計画	第 1回（10月 2日） 児童発達支援施設見学の事前オリエンテーション 第 2回（10月 9日） 地域作業療法の基盤と背景、演習オリエンテーション 第 3回（10月16日） 地域リハビリテーションの概念 第 4回（10月23日） 地域支援事業とは 第 5回（10月30日） 認知症基本法 第 6回（11月 6日） 発達領域地域作業療法の実際1（児童発達支援施設の見学 ） 第 7回（11月20日） " 2（児童発達支援施設の見学 ） 第 8回（11月27日） " 3（児童発達支援施設の見学 ） 第 9回（12月 4日） " 4（児童発達支援施設の見学 ） 第10回（12月11日） " 5（実地見学に関する課題発表 ） 第11回（12月18日） " 6（実地見学に関する課題発表 ） 第12回（12月25日） " 7（実地見学に関する課題発表 ） 第13回（ 1月 8日） 地域支援事業の演習1 第14回（ 1月15日） 地域支援事業の演習2 第15回（ 1月22日） 地域支援事業の演習課題の発表& まとめ 授業アンケートの実施			
授業の進め方	授業はテキストや配布資料に基づいて進めていきますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きを置いて展開します。また演習では、地域リハビリテーションの実践例を調べる課題や地域作業療法プログラムのコンテンツを作成する課題を課すことで、学生が体験学習を通して学んだ成果を報告していただきます。発達領域の地域作業療法の実際については、児童発達支援施設での実地見学を行い、見学で学んだ内容を踏まえ、各自が所定の書式に基づく報告書を作成し、セミナー（報告会）を実施します。 児童発達支援施設での実地見学は各自1回ずつ2コマ続きで行います。施設との日程調整の兼ね合いで、日程が確定次第、予めお伝えします。上記の日程はあくまでも仮の見学スケジュールとなっていますのでご注意ください。当該日に実地見学のない学生は他の演習課題を進めていただきます。			
テキスト、教材、参考書	テキスト 日本作業療法士協会：作業療法士ができる地域支援事業へのかかわり方。2017 その他にも資料を配布します。 参考文献は授業で紹介します。			

成績評価の方法	演習課題の成果と発達施設見学への参加や報告書等に基づいて、総括的に成績を評価します。演習課題は、授業理解20%、自習学習15%、地域課題の資料作成・発表15%の計50%とし、発達施設の実地見学では、実地見学への参加態度20%、発達施設見学の報告書作成20%、発達施設見学のセミナーにおける発表・積極的参加10%の計50%で評価し、総計の60%以上を合格とします。演習課題の成果は上記の発表会の日に学生による評価も含めて評価し、フィードバックを行います。
成績評価の基準	演習課題の成果による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90 - 100点：秀，80-89点：優，70 - 79点：良，60-69点：可 なお、演習課題の採点基準は、達成目標に関連した視点から授業で例題を示した範囲における、最低限の理解の基準にあれば「水準にある（可）」、やや詳細な内容であれば「やや上にある（良）」、十分に詳細な内容であれば「かなり上にある（優）」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学習した詳細な内容であれば「卓越している（秀）」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業の終わりに、次回までに学習すべき内容について説明を行います。 【事後学習について】 授業の初めに、前回の授業で復習した内容や能動学習として学習した内容についての質問を受けます。演習課題はグループ単位で行いますが、発表に至る過程で、積極的に質問してください。 本授業の単位取得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋事前・事後の自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	地域における作業療法は新しい分野なので、知的好奇心をもって取り組んでください。 質問への対応 上村智子 tkamimu@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日12時～13時 保健学科中校舎4階 上村研究室 佐藤正彬 msato1413@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前相談）保健学科南校舎2階 作業療法助教室